

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年4月発行 No. 360

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: horbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その3

オンライン大会で「グランプリ」を受賞（尾崎杏子）

東京・おてだまは、ことし2月19日に行われた「令和4年度全国お手玉遊び大会」オンライン大会へ参加し「東京音頭」でグランプリを受賞しました。全国から11チームの応募があった中でのグランプリなので、たいへんうれしく思っております。

東京・おてだまの例会で、グランプリ受賞を報告すると、会員一同から歓声が上がりました。会員の中には、この審査風景をオンライン中継で観ていた会員もいて、新しい時代を感じました。

このたび応募したビデオ作品は、世田谷せせらぎホールで行った初めての演舞を収録したものです。当時はコロナ禍だったため、出演者はもとより、カメラ、観客について、細かく人数制限が加えられた厳しい環境下での収録となりました。しかも、取り上げた演目の「東京音頭」は、私どもにとって初めて披露した演舞でした。それがグランプリをいただいたのですから、うれしさはひとしおでした。

このところの東京・おてだまは、どこの会場へ出かけても、東京音頭の曲を流して演舞を始めます。すると、観衆のみなさんが踊りの輪に入ってくくださるようになり、とてもうれしいです。

蛍光お手玉で幽玄の世界を演出したい

世田谷フェスタでは、東京・おてだまの会員が、舞台上で踊る人、客席に入って踊る人に分かれて演舞を披露しましたが、とても好評です。その際、会場のみなさんへお手玉を2個ずつ渡しています。

すると、お客様が喜んで、それぞれに笑顔でお手玉をゆってくださいます。その会場全体でお手玉をゆる風景は、とても素晴らしい光景です。

この光景をさらに盛り上げようと、蛍光塗料を使った布でお手玉を作り、「ほう ほう ほたるこい…」をやってみました。しかし、頭



（お手玉演舞を披露する東京・おてだまのみなさん）

のなかで描いた絵とは異なり、お手玉で蛍の光を演出することの難しさを味わいました。もういちど挑戦して、お手玉で幽玄の世界を演出することを考えています。

これまで日本のお手玉の会のご指導は、支部の活動に大きな支えになっています。これからも、支部の足元を照らす灯台でありつづけてくださることを、心から願っております。（東京・おてだま理事長）